

## 阿哲地域要素からみた福井県の重要な植物：福井県植物図鑑の編集を終えて

著者	若杉 孝生
雑誌名	植物地理・分類研究 = The journal of phytogeography and toxonomy
巻	51
号	2
ページ	103-112
発行年	2003-12-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/48607">http://hdl.handle.net/2297/48607</a>

## 2003 年度植物地理・分類学会賞受賞記念講演 (要旨)

### 若杉孝生：阿哲地域要素からみた福井県の重要な植物—福井県植物図鑑の編集を終えて—

〒916-0146 福井県丹生郡朝日町朝日 17-3-1 福井総合植物園

Takao Wakasugi : Noteworthy plants of Fukui Prefecture, with special reference to phytogeographic relationship to flora of Atetsu area — As a consideration for flora of Fukui Prefecture —

Fukui Botanical Garden, Asahi 17-3-1, Asahi-cho, Niu-gun, Fukui 916-0146, Japan

#### はじめに

昭和8年に福井県の植物目録が発行されて以来(福井県1933),約半世紀以上経過して,新しい福井県植物図鑑が完成した(福井県植物研究会1997,1998,1999,2000,2001)。各県でも地方植物誌などが出版されているが,図鑑であるほうが,はるかによいことは明らかである。さらに植物誌なみのほとんどの分類群をカラー写真で示すことはきわめて意義のあることと考える。1つの県で,高等植物から始まって下等植物も含めての図鑑は国内でも今回が最初ではないかと思われる。またそれらの各分野を含めてこそ,その県の植物記録誌といえと筆者は考えている。このような図鑑を福井県が今回初めて出版することができたことは,福井県植物研究会の会員やその他の協力者のおかげであることはもちろんであるが,これらの同定・監修を快く引き受けていただいた各専門分野の先生方のご協力の賜物であると感謝している。さらにこの企画をすすめられ,郷土の環境を守っていかうという福井県の,将来への展望ある理解なしには,この事業は不可能であったといえよう。本図鑑に掲載された各分類群は次のとおりである。

第1巻 福井の野草(上) 1997年 草本約600分類群

第2巻 福井の野草(下) 1998年 草本約750分類群

第3巻 福井の樹木 1999年 木本約430分類群

第4巻 福井のシダと海藻 2000年 シダ類約250分類群,海藻類約200分類群

第5巻 福井のコケと地衣・[補遺] 2001年 蘚苔類約150分類群,地衣類約65分類群,変形菌類約50分類群,淡水藻類12分類群,補遺(維管束植物)約60分類群,タケ類約30分類群  
掲載分類群合計約2,600分類群

(I) 福井県植物図鑑に掲載した高等植物のうち,福井県フローラ初記録の植物及び主な稀産種(本稿では種子植物にのみとどめておいた。以下,学名は主として「日本の野生植物」草本Ⅰ～Ⅳ,木本Ⅰ,Ⅱ,平凡社刊によった。)

A. 福井県植物図鑑①福井の野草(上)平成9年(1997)3月発行

1. エチゼンオニアザミ(キク科) *Cirsium occidentale nipponense* Kadota (Fig. 1)

福井県の奥越山地に自生し,1997年9月に新種として発表された。両白山地の固有種と考えられている(Kadota 1997)。

2. クチバシシオガマ(ゴマノハグサ科) *Pedicularis chamissonis* Steven var. *japonica* (Miq.) Maxim. f. *rostrata* T.Yamaz.

3. クルマバソウ(アカネ科) *Asperula odorata* L.

4. アケボノスミレ(スミレ科) *Viola rossii* Hemsl.  
福井県内での分布は限られており,嶺北の奥越の一部に見られる。

5. シロミノヤブヘビイチゴ(バラ科) *Duchesnea indica* (Andrews) Focke f. *albocaput* Naruh.

福井市の足羽三山の一角で見つけられたもので,ヘビイチゴの白実是国内に記録があったが,ヤブ



Fig. 1. *Cirsium occidentalinipponense*.

ヘビイチゴの白実はこれが初めてのものである (鳴橋 1992)。

6. ヒダボタン (ユキノシタ科) *Chrysosplenium nagasei* Wakab. et H. Ohba var. *nagasei*

1995 年に新種として発表された (Wakabayashi and Ohba 1995)。その後筆者らの調査によって福井県の奥越地方にも広く分布することが確認された。

7. ヒメヒダボタン (ユキノシタ科) *Chrysosplenium nagasei* Wakab. et H. Ohba var. *luteo-florum* Wakab.

1995 年にヒダボタンとともに、その新変種として発表された (Wakabayashi and Ohba 1995)。本変種も筆者らの調査により福井県の奥越地方にも広く分布することが確認された。

8. オオアゼスゲ (カヤツリグサ科) *Carex thunbergii* Steud. var. *appendiculata* (Trautv.) Ohwi

現在のところ福井県では敦賀市の中池見湿地にのみ自生することが確認されている。

9. ヒメコウガイゼキショウ (イグサ科) *Juncus bufonius* L.

10. サクライソウ (ユリ科) *Protophila sakuraii*

(Makino) Dandy

1968 年 (昭和 43 年) に福井県永平寺町の永平寺の裏山で発見されたが、その後数年は確認されたものの、植生の変化とともに同処に生育を見なくなってしまった。当時の自生地はアカマツなどの針葉樹やソヨゴなどの常緑広葉樹、サワフタギなどの落葉樹の混交林で、比較的乾燥気味の林床は、主にマツ類の落葉の分解度の低い、かなり厚い堆積層であり、他の草本類はほとんど見られなかった。その後、植生の自然遷移による変化に伴って生育の条件が適さなくなったのではないかと考えられる。これまでに知られている本州での産地は、岐阜、石川、福井の各県及び京都府のみである。

B. 福井県植物図鑑②福井の野草 (下) 平成 10 年 (1998) 3 月発行

1. キビシロタンポポ (キク科) *Taraxacum hideoi* Nakai ex H. Koidz. (Fig. 2)

和名のごとく岡山県とその周辺及び四国、紀伊半島の一部に稀産し、福井県は本種の分布の北東限と考えられている。



Fig. 2. *Taraxacum hideoi*.

2. イナベアザミ (キク科) *Cirsium magofukui* Kitam. (Fig. 3)

滋賀、岐阜、三重の各県に稀産するが、福井県のはこれに比し、はるかに大型で検討を要する。

3. ヒダアザミ (キク科) *Cirsium hidaense* Kitam.

4. エチゼンヒメアザミ (キク科) *Cirsium wakasugianum* Kadota (Fig. 4)

ヒメアザミ *C. buergeri* Miq. と混同されていたが、1995 年に別種とされた (Kadota 1995)。福井県と岐阜県の県境付近に広く分布する。

5. キヨスミウツボ (ハマウツボ科) *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

6. ユキミバナ (キツネノマゴ科) *Strobilanthes wakanus* Takao Wakasugi et Naruh. (Fig. 5)

Fig. 3. *Cirsium magofukui*.Fig. 4. *Cirsium wakasugianum*.

同科のスズムシバナ *S. oliganthus* Miq. と混同されていたもので、1993年に新種とされた (Wakasugi and Naruhashi 1993)。

7. グンバイヒルガオ (ヒルガオ科) *Ipomoea polymorpha* Roem. et Schult. (Fig. 6)

四国、九州南部及び亜熱帯から熱帯に分布するが、極めて稀に海流によって福井県の海岸にも漂着することがある。しかし、発芽しても冬には枯れて、定着しない。

8. ムラサキセンブリ (リンドウ科) *Swertia pseudochinensis* H.Hara

9. ハナイカリ (リンドウ科) *Halenia corniculata* (L.) Cornaz

10. ヤナギスカボ (タデ科) *Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara  
福井県ではっきりしている生育地は現在のところ敦賀市中池見湿地のみである。

11. ホソバイスタデ (タデ科) *Persicaria trigonocarpa* (Makino) Nakai

12. ハチジョウススキ (イネ科) *Miscanthus condensatus* Hack.

13. ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) *Glyceria lep-*

Fig. 5. *Strobilanthes wakanus*.Fig. 6. *Ipomoea polymorpha*.



*tolepis* Ohwi

14. ケナシチガヤ (イネ科) *Imperata cylindrica* (L.) P.Beauv. var. *cylindrica*
15. エビアマモ (アマモ科) *Phyllospadix japonicus* Makino
16. ホロムイソウ (ホロムイソウ科) *Scheuchzeria palustris* L. (Fig. 7)

本種は本州中部では、1963 年に岐阜県北部の天生湿原で (奥山 1983)、また、1973 年には京都府の深泥池に自生することが報告されている (村田 1973)。福井県東北部の岐阜県境付近での今回の発見はその両自生地をつなぐもので、まことに興味深い。



Fig. 7. *Scheuchzeria palustris*.

C. 福井県植物図鑑③福井の樹木 平成11年(1999) 3月発行

1. シロヤマブキ (バラ科) *Rhodotypos scandens* (Thunb.) Makino

国内では中国地方に自生し、阿哲要素の 1 つと考えられている。福井県の越前海岸近くのケヤキ林などにも稀産する (福岡・黒崎 1981; Fig. 8)。国内での隔離分布として重要。

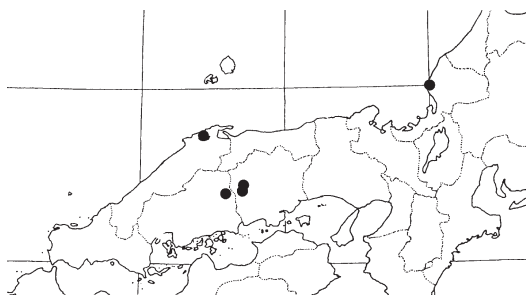


Fig. 8. Distribution map of *Rhodotypos scandens*. Localities from Fukuoka and Kurosaki (1981).

2. マルバクサイチゴ (バラ科) *Rubus hirsutus* Thunb. f. *simplicifolius* (Makino) Ohwi (Fig. 9)

飯沼慾斎の草木図説 (飯沼・北村 1977) 及び保育社の原色日本植物図鑑木本編 (北村・村田 1979) にのみ記載されていて、自生地が不明であったもの。福井県でも現在、1ヶ所しか見られない (若杉・鳴橋 1993)。



Fig. 9. *Rubus hirsutus* f. *simplicifolius*.

3. コマガタケスグリ (ユキノシタ科) *Ribes japonicum* Maxim.

D. 福井県植物図鑑⑤福井のコケと地衣・[補遺] 平成 13 年 (2001) 3 月発行

1. オオユリワサビ (アブラナ科) *Eutrema oki-*



Fig. 10. *Eutrema okinosimensis*.

*nosimensis* Takenouchi (Fig. 10)

オオユリワサビは国内では稀産種で、すでに絶滅したと思われていた（環境庁自然保護局野生生物課 2000）。ところが福井県ではユリワサビ *Eutrema tenuis* (Miq.) Matsum. と混同されていたため、福井県での自生が確認されていなかった。福井県においては、オオユリワサビのほうがやや多く、ユリワサビのほうが稀産であることが判明した（鳴橋他 2000）。

2. ヨウラクラン(ラン科) *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino

宮城県から沖縄県にかけて分布するが、最近福井県でも確認することができた。前川（1971）は、本種は日本海側では隠岐の他に若狭湾付近に一、二の産地があるに過ぎないと記している。

3. ヒナノシャクジョウ (ヒナノシャクジョウ科) *Burmannia championii* Thwaites

4. ホンゴウソウ(ホンゴウソウ科) *Andruris japonica* (Makino) Giesenh.

5. ウエマツソウ(ホンゴウソウ科) *Sciaphia tosaensis* Makino

6. アテツマンサク(マンサク科) *Hamamelis japonica*

*ica* Siebold et Zucc. var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi (Figs. 11 and 12)

本種は前川文夫氏によって阿哲要素の1つと考えられているが、福井県の丹生郡織田町を中心に阿哲地域から飛地的に分布していることが今回の調査で確認できた。

7. ヤシャダケ(イネ科) *Semiarundinaria yashadake* (Makino) Makino (Fig. 13)

タイプ産地は岐阜県夜叉ヶ池畔であるが、福井



Fig. 12. Flowers of *Hamamelis japonica* var. *bitchuensis*.



Fig. 11. *Hamamelis japonica* var. *bitchuensis*.



Fig. 13. *Semiarundinaria yashadake*.



Fig. 14. *Hibanobambusa tranquillans*.

県内でもやや稀に見られる。

8. インヨウチク (イネ科) *Hibanobambusa tranquillans* (Koidz.) Maruy. et H.Okamura (Fig. 14)

島根県比婆山の特産とされているが、福井県にも自生が確認できたことはきわめて興味深い (Fig. 15)。ただ、福井県のはインヨウチクそのものとは多少違いがあるので、今後の検討を要する。

## (Ⅱ) 若狭・越前地域と山陰地方の代表種

- A. 阿哲地域要素といわれるシロヤマブキとアテツマンサク

前項 (Ⅰ) で記したように、いわゆる阿哲要素といわれるシロヤマブキ (バラ科) とアテツマンサク (マンサク科) が福井県に自生することは極めて興味深い。シロヤマブキの自生地は福岡・黒崎 (1981) によってすでに報告されており (Fig. 8), また、アテツマンサクの自生は今回の調査で福井県内の丹生郡の山地に広く見られることがわかった。さらに、島根県の比婆山の特産とされているインヨウチク (イネ科) が福井県丹生郡清水町の山地に自生する

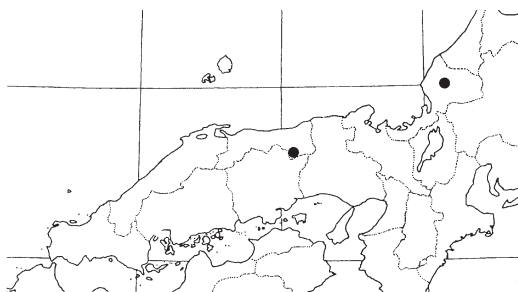


Fig. 15. Distribution map of *Hibanobambusa tranquillans*. Localities from the author's observation and specimens in KYO.

ことが今回の調査で明らかとなったのである (Fig. 15)。比婆山はいわゆる阿哲地域とはやや離れるがほとんど同一の地域とみなして良いと思われる。このような特殊な植物が共通に分布することは、大変興味ある事実と考えざるを得ない。また、アテツマンサクは葉裏の星状毛が秋まで残ること、葉形がマンサクやマルバマンサクと多少とも異なることなどの特徴がある。

## B. 阿哲地域要素の再考

小泉源一氏が西南日本の植物区系を発表したのは 1931 年で、前原勘次郎氏の「南肥植物誌」に記載された「前言」においてである (小泉 1931)。小泉氏はこの文中で西南日本の植物区系を構成する植物地理学的要素として 5 つの区をあげている。第一は中部支那要素、第二は玖摩関東要素、第三は襲連紀要素、第四は満鮮要素、第五が中国要素である。ここで、小泉氏が記した中国要素とは次のとおりである (原文のまま)。

### 『第五、中国要素。』

*Cacalia peltifolia* Makino、たんでいはがさ、ひうがみづき、おほきんれいくわ、ながはやくしさう、きびなはしろいちご、びつちうふうろ、きびいぬのひげ、ぢやうばうざさ、ちとせかづら、なつあさどり、ありまぐみ、よしのやなぎ、きびのだけ、あてつまんさく、びつちうあざみ、やねふきざさ、そがゐこまゆみ (*Evonymus Arakiana* Koidz.), かみがもさう、うすぎやうらく、もみぢちやるめる、きぶねだいわう、ひらをやなぎ、ほそばまゝこな、あきのひめこづち、*Carpesium Koidzumii* Makino、はるのひめこづち、等。』

これらの種の現在の分類学的取り扱い、分布状況とその後に明らかになった内容を整理してみると次のようになると考えられる。



**Cacalia peltifolia Makino**

タイミンガサ。北陸～近畿北部に分布。

たんごいはがさ

以前は多くの変種や品種が記載されたので和名だけでははっきりできないがタンゴイワガサ *Spiraea kinasii* Koidz. は現在はイワガサ *S. blumei* G.Don に含まれている。また日本海側の海岸に生育するもので福井県以西のものをミツバイワガサ *S. blumei* var. *obtusata* (Nakai) Sugim. としている。

ひうがみづき

ヒュウガミズキ。石川県・福井県・京都府・兵庫県の日本海側に分布。

おほきんれいくわ

オオキンレイカ。福井県高浜町青葉山の固有種。

ながはやくしさう

ナガハヤクシソウ。岡山県特産。

きびなはしろいちご

キビノナワシロイチゴ。福島県・長野県・岡山県・九州に分布。

びつちうふうろ

ビッチウフウロ。長野県南部・東海・近畿北部・中国地方に分布。

きびいぬのひげ

キビイヌノヒゲ。マツムライヌノヒゲの異名。シロイヌノヒゲの変種 *Eriocaulon sikokianum* Maxim. var. *matsumurae* (Nakai) Satake で、中国・近畿地方に分布。

ぢやうばうざさ

ジョウボウザサ。本州中部及び西南部に分布。岡山県上房郡が基準産地。

ちとせかづら

チトセカズラ。兵庫県・中国地方に分布。

なつあさどり

ナツアサドリ。兵庫県・中国地方に分布。

ありまぐみ

アリマグミ。静岡県西部～兵庫県東部・四国に分布。

よしのやなぎ

ヨシノヤナギ。近畿・中国地方、四国に分布。

きびのだけ

キビノダケ。ヒメノダケの異名、ツクシノダケ *Angelica cartilagino-marginata* (Makino) Nakai ともいう。近畿以西・四国・九州に分布。

あてつまんさく

アテツマンサク。中国・四国・九州及び福井県に分布。

びつちうあざみ

ビッチウアザミ。中国山地と兵庫県西部に分布。

やねふきざさ

ヤネフキザサ。現在はチマキザサの異名とされている。

そがゐこまゆみ (Evonymus Arakiana Koidz.)

ソガイコマユミ。現在はコマユミ *Euonymus alatus* (Thumb. ex Murray) Siebold f. *striatus* (Thumb.) Makino の異名とされているが他の見解もある。

かみがもさう

カミガモソウ。初め京都府上賀茂で発見されたが現存しない。奄美大島も絶滅した可能性が高く（鹿児島県環境生活部環境保護課 2003）、兵庫県と長崎県に分布（福岡他 1993；中西・川内野 1994）。

うすぎやうらく

ウスギヨウラク。この植物は現在はツリガネツツジと同一種とされており、本州では山梨県・石川県以西、四国の一部に分布する。

もみぢちやるめる

モミジチャルメルソウ。京都府・滋賀県・福井県に分布。

きぶねだいわう

キブネダイオウ。国内では京都府にのみ分布。

ひらをやなぎ

ヒラオヤナギ。イヌコリヤナギとキツネヤナギ類の間種。

はそばまゝこな

ホソバママコナ。国内では中国地方西部・四国北部・九州北部に分布。

あきのひめこづち

アキノヒメコヅチ。アキノタムラソウの異名。全国に分布。

**Carpesium Koidzumii Makino**

ホソバガンクビソウ *C. divaricatum* Siebold et Zucc. var. *abrotanoides* (Koidz.) Kitam. の異名で、本州～九州に分布。

はるのひめこづち

ハルノヒメコヅチ。タジマタムラソウ *Salvia omerocalyx* Hayata var. *omerocalyx* のことである。小泉源一氏はその標本にハルノヒメコヅチという和名を記している。京都府・兵庫県・鳥取県の日本海側に分布。

その後、前川文夫氏は 1949 年に「日本植物区系の基礎としてのマキネシア」（前川 1949）、ひきつづき「日本の植物区系」（前川 1977）を発表し、そ



の中で氏は「日本の地方的植物区系」をまとめている。これは小泉氏の西南日本の植物区系の発表以来、初めて展開された全国の植物区系の設置として、画期的なものであった。前川氏はその中で、阿哲地域なるものを設けている。その概要を記すと次のようである。「阿哲地域とは中国の山陽側で、岡山県西部と広島県東部の石灰岩地帯の多い小地域である。阿哲という名は、中心をひろく蔽う岡山県下の郡の名である」。そしてこの地域の代表的な植物群として、次の種をあげている。

「キビヒトリシズカ、シロヤマブキ、ショウコウミズキ、アテツマンサク、ナツアサドリ、チョウセンヤマツツジ、ヤマトレンギョウ、チョウジガマズミ、イワツクバネウツギ、ナガバヤクシソウ、アオイカズラ。」(原文のまま)

前川氏が阿哲地域要素の検討をすすめていくうち、阿哲地域のヤマトレンギョウと小豆島のショウドシマレンギョウの遺存的隔離分布を考察されて、小豆島をもその地域に包含した(前川 1982)。

このことから考えられるように、阿哲地域を中心に生育している植物が、その分布域をさらに広げ、または欠落していったことの可能性は容易に考えられる。それが太平洋側のみならず、広く山陰地方にも及んでいると推察できるのではないだろうか。植物は一定のところに止まっているわけではない。わずかずつ分布を広げているものもあれば、生きた地史の証明者ともいわれるカンアオイ類のように大変遅々とした分布を進めているものもある。植物の分布を一定の枠にはめて考えることは誤りである。前川氏が指摘した阿哲要素といわれるシロヤマブキやアテツマンサクが福井県で確認されていることは、いわゆる阿哲地域と福井県とに何らかの関連があり、植物地理学上特徴的なことであると考えざるを得ない。阿哲要素とは小泉氏の提唱した中国要素の中の特殊なものであって、当時確認されていなかったものも含めて検討する必要があると考えられる。これまで山陰地方に偏った分布を示している植物と福井県に共通の分布を示す植物を、日本海側に分布するというだけでなく、広義の阿哲要素ともいべき中国要素の展開という形で捉えていきたいと考えている。

#### C. 山陰地方に特徴的な植物の若狭・越前地域との関連

##### 1. インヨウチク (イネ科)

(I) に記述。

##### 2. サンインクワガタ (ゴマノハグサ科) *Veronica muratae* T.Yamaz. (Fig. 16)

山口県から福井県の若狭地方に分布 (Fig. 17)。

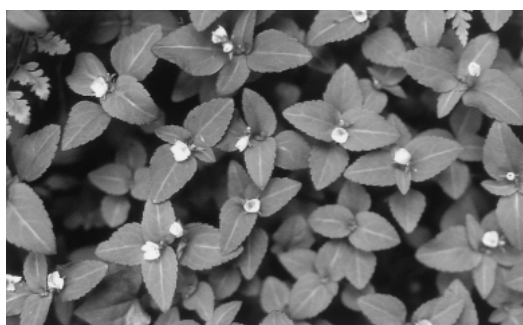


Fig. 16. *Veronica muratae*.

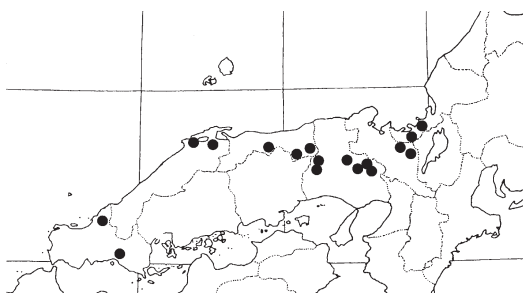


Fig. 17. Distribution map of *Veronica muratae*. Localities from the author's observation and specimens in KYO.

##### 3. サンインシロカネソウ (キンポウゲ科) *Dichocarpum ohwianum* (Koidz.) Tamura et Lauener (Fig. 18)

島根県から福井県若狭地方に分布 (Fig. 19)。



Fig. 18. *Dichocarpum ohwianum*.

##### 4. タジマタムラソウ (シソ科)

京都府・兵庫県・鳥取県の日本海側に分布。福井県境近くまで見られ、今後の調査が必要である。

##### 5. ハイタムラソウ (シソ科) *Salvia omerocaryx* Hayata var. *prostrata* Satake

前種が福井県で分化したものと考えられ、タジマタムラソウに比べて、茎の基部が這い、節間が

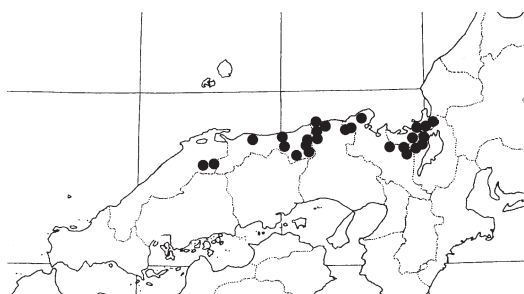


Fig. 19. Distribution map of *Dichocarpum ohwia-num*. Localities from the author's observation and specimens in KYO.

伸びる特徴がある。若狭と越前の両方に見られる。

6. ワカサハマギク (キク科) *Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam. var. *wakasaense* (Shimot.) Kitam.

リュウノウギクの倍数体で、福井県から鳥取県の日本海側に分布。いろいろな型が見られる。

7. キビシロタンポポ (キク科)

若狭に稀に見られるもので、キビシロタンポポの分布の北東限と考えられる。(I) にも記述。

ところで、西部日本海側に分布するカンアオイについて若干触れておきたい。カンアオイ類は分布速度が極めて遅く、生きた地史の証明者として評価されていることはよく知られているとおりである。日本海側に分布するカントウカンアオイ系のものはこれまでアツミカンアオイ *Heterotropa nipponica* (F. Maek.) F. Maek. var. *rigescens* (F. Maek.) F. Maek. とされていたが、前川文夫氏は別のものと考えていた。即ち、アツミカンアオイは紀伊半島南部に自生するもので、日本海側には自生しない。1971年、前川氏は筆者の調査により、福井県の若狭と越前には秋咲きの変種、エチゼンカンアオイ (仮称) があることを認め、さらに敦賀半島とその周辺には春咲きの変種、ハルザキエチゼンカンアオイ (仮称) が分布することも認められた。そしてこれらの西域、つまり山陰地方には同系のサンインカンアオイ (仮称) が自生するのである。つまり西からいえば日本海側ではサンインカンアオイ→エチゼンカンアオイ→ハルザキエチゼンカンアオイ→エチゼンカンアオイと分布し、さらに福井県北部と石川県南部の小地域にはナタデラカンアオイ (仮称) が分布する (若杉 1978, 1986)。これらの興味深い事実は、山陰地方と若狭・越前との植生の繋がりを明らかにしていく上で、大きな意味をもつものと思われる。前川氏は生前、エチゼンカンアオイの学名として *H. nipponica* var. *echizen* を、ハルザキエチゼンカンア

オイに対しては var. *vernalis* を、ナタデラカンアオイに対しては var. *natadera* をそれぞれ用意されたが、正式には発表されていない。これらの日本海側西部のカンアオイ類については、現在、東京都立大学の菅原 敬氏と取りまとめ中である。

#### D. 若狭・越前地域におけるその他の重要な植物

1. オオキンレイカ (オミナエシ科) *Patrinia takeuchiana* Makino

福井県高浜町にある青葉山に自生する福井県固有の植物である。この青葉山は京都府と接している。

2. カエデダイモンジソウ (ユキノシタ科) *Saxifraga acerifolia* Wakab. et Satomi

別名エチゼンダイモンジソウ。福井県丸岡町の丈競山に自生し、近年石川県側にも自生が確認されている。

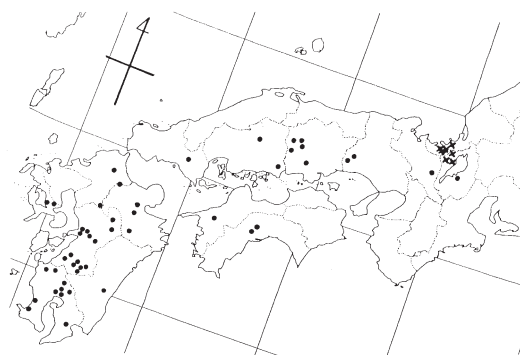


Fig. 20. Distribution map of *Strobilanthes oligantha* and *S. wakasanus*. ●, *S. oligantha*; X, *S. wakasanus*. After Wakasugi and Naruhashi (1993).

なお(I)のBでふれたユキミバナ (キツネノマゴ科) は若狭の一部と滋賀県の一部に分布するもので、属レベルで見れば *Strobilanthes* の分布域の北東部の末端に位置する種として注目される (Wakasugi and Naruhashi 1993; Fig. 20)。

#### おわりに

本稿では阿哲要素を中心とした山陰要素との関連で考えられる福井県の植物地理の一端に触れたが、今後さらに、太平洋側要素や東北要素など各区系との関連の考察を深めていきたいと考えている。丸山巖氏は、その著書「しまねの草花」(丸山・林 1985)のなかの「島根の植物分布略記」に、「元来行政区画から植物の分布区系を論じたり、また小さい地方のことを無理して云々することに難色を感じる」と

記している。福井県の植物地理の研究にも、このことがあてはまるであろう。

### 謝辞

本稿をまとめるにあたって、富山大学の鳴橋直弘氏、東京都立大学牧野標本館の菅原 敬氏、その他の方々にお世話になりました。また資料などについては、元京都大学の村田 源氏、倉敷市立自然史博物館の狩山俊悟氏、本文の作成については福井県立勝山南高校の黒田明穂氏、福井総合植物園の松本 淳氏、松田年弘氏にお世話になりました。京都大学総合博物館の永益英敏氏には標本の閲覧の便を取り図らっていただきました。記して謝意を表します。

### 引用文献

- 福井県. 1933. 植物之部. 福井県. 福井県生物目録, pp. 1-82. 福井県, 福井.
- 福井県植物研究会 (編・著). 1997. 福井県植物図鑑①福井の野草 (上). 276 pp. 福井県, 福井.
- 福井県植物研究会 (編・著). 1998. 福井県植物図鑑②福井の野草 (下). 334 pp. 福井県, 福井.
- 福井県植物研究会 (編・著). 1999. 福井県植物図鑑③福井の樹木. 243 pp. 福井県, 福井.
- 福井県植物研究会 (編・著). 2000. 福井県植物図鑑④福井のシダと海藻. 255 pp. 福井県, 福井.
- 福井県植物研究会 (編・著). 2001. 福井県植物図鑑⑤福井のコケと地衣・[補遺]. 281 pp. 福井県, 福井.
- 福岡誠行・黒崎史平. 1981. 本州西部植物地理雑誌 2. 頌栄短期大学研究紀要 **13**: 51-58.
- 福岡誠行・迫田昌宏・三宅慎也・永益英敏. 1993. カミガモソウの新産地. 植物分類, 地理 **44**: 210-211.
- 飯沼愨斎・北村四郎. 1977. 草木図説木部 (上). 582 pp. 保育社, 大阪.
- Kadota, Y. 1995. Taxonomic studies of *Cirsium* (Asteraceae) of Japan II. Three new species and a new variety of *Cirsium nipponicum* (Maxim.) Makino from central Honshu. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B **21**: 13-27.
- Kadota, Y. 1997. Taxonomic studies of *Cirsium* (Asteraceae) of Japan III. *Cirsium occidentalinipponense*, sp. nov. with special reference to the lectotypification of *Cirsium borealinipponense* Kitam. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B **23**: 115-125.
- 鹿児島県環境生活部環境保護課 (編). 2003. 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編—鹿児島県レッドデータブック—. 657 pp. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 北村四郎・村田 源. 1979. 原色日本植物図鑑木本編 II. 545 pp. 保育社, 大阪.
- 環境庁自然保護局野生生物課 (編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物 I (維管束植物). 660 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 小泉源一. 1931. 前言. 前原勘次郎. 南肥植物誌, (ページ番号無し). 三秀舎, 東京.
- 前川文夫. 1949. 日本植物区系の基礎としてのマキネシア. 植物研究雑誌 **24**: 91-96.
- 前川文夫. 1971. 原色日本のラン. 495 pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 前川文夫. 1977. 日本の植物区系. 178 pp. 玉川大学出版部, 東京.
- 前川文夫. 1982. 阿哲地域を考える. 岡山県植物研究会誌 (1): 3-6.
- 丸山 巖・林 亨. 1985. しまねの草花. 115 pp. 山陰中央新報社, 松江.
- 村田 源. 1973. 植物分布新報知. 植物分類, 地理 **25**: 187.
- 中西弘樹・川内野善治. 1994. カミガモソウの新産地とその形態. 植物地理, 分類 **45**: 169-171.
- 鳴橋直弘. 1992. シロミノヤブヘビイチゴ. 植物地理・分類研究 **40**: 131-132.
- 鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝生. 2000. オオユリワサビ, その生活と分類的位置. 植物地理・分類研究 **48**: 141-148.
- 奥山春季. 1983. 新訂増補 原色日本野外植物図譜 2. 夏・高山植物. 589 pp., 32 pp., pls. 255-536. 誠文堂新光社, 東京.
- Wakabayashi, M. and Ohba, H. 1995. A taxonomic study of *Chrysosplenium fauriae* Group (Saxifragaceae), with description of a new species. Acta Phytotax. Geobot. **46**: 1-27.
- 若杉孝生. 1978. カンアオイ・各地だより. 福井県とその周辺で. ガーデンライフ (119): 57.
- 若杉孝生. 1986. 前川博士とカンアオイとギボウシと… 前川文夫追悼文集編集委員会 (編). 前川文夫, pp. 118-121. 共同印刷, 東京.
- 若杉孝生・鳴橋直弘. 1993. 幻の植物マルバクサイチゴを北陸で発見. 植物研究雑誌 **68**: 122-124.
- Wakasugi, T. and Naruhashi, N. 1993. A new species, *Strobilanthes wakasana* (Acanthaceae) from Japan. J. Phytogeogr. Taxon. **41**: 1-6.

(Received September 22, 2003; accepted November 4, 2003)